

A7-8. 弁当容器へのデポジット制度導入の経緯と論点 — 福島大学を例に —

○沼田 大輔 (numata@econ.fukushima-u.ac.jp) *

* 福島大学 経済経営学類

(I) 概要

- ・全国の多くの大学生協同組合では、回収・リサイクルを企図した弁当容器(例: リリパック)が使われている。
 - リリパック: 食後に容器に貼られているフィルムをはがし、残ったトレーを回収し弁当容器の製造元に送れば、新しい容器の材料となる容器
 - 福島大学生協(以下、福大生協)でも2006年からリリパックを使用
- ・食後のリリパックの回収を進めるべく、福島大学では2013年4月から、リリパック入りの弁当にデポジット制度を導入(2013年11月現在も実施中)
- ・本報告は、福島大学で弁当容器へのデポジット制度が導入されるに至った経緯を示し、そこでの議論の論点となったことを示す。
 - これにより、今後、弁当容器をはじめとする各種の製品の回収にデポジット制度を検討する際の参考を提起する。



(II) 福島大学で弁当容器にデポジット制度が導入されるまでの経緯

・福島大学で弁当容器にデポジット制度が導入されるまでの全体の経緯(福島大学経済経営学類沼田ゼミでの取組を中心に):

2006年~	・福大生協で、リリパックによる弁当の販売を開始。食後のリリパックの回収も開始したが、1ヵ月で断念。リリパックによる弁当販売のみ継続
2008年度	・沼田、および、沼田ゼミで、弁当容器の製造、他大学生協における弁当容器回収などを視察。詳しくは、沼田(2009)を参照
2009年度	・沼田ゼミと福大生協が共同で、容器の回収ボックスを設置し、使用済み容器の回収を開始(2009年12月から)(2013年11月現在も実施中) - 回収ボックスの管理は福大生協が行う。詳しくは、沼田(2010)を参照 ・使用済み容器の返却の手間に関する消費者へのアンケートを福島大学で実施し、デポジット制度導入の経済学的検討の方法などを示した。詳しくは、小野・沼田(2013)を参照 ・新入生向けの福大生協のガイダンス等で、沼田ゼミや福大生協が弁当容器回収についての説明を実施(2010年度以降、毎年)
2010年度	・沼田ゼミおよび福大生協学生委員会などで、弁当容器の製造、他大学生協における弁当容器回収などを視察し、使用済み弁当容器の回収システムを分類 - 詳しくは、沼田(2011)を参照
2011年度	・全国の大学生協に、弁当容器の回収方法についてのアンケートを実施し解析。デポジット制度の適用の有用性が示唆された。詳しくは、沼田(2012)を参照
2012年度	・以上を踏まえ、福大生協との協議を重ねつつ、弁当容器の新たな回収方法を福大生協理事会に提案し、議論。弁当容器にデポジット制度を導入することが可決された

・2012年度の福大生協理事会での、弁当容器デポジットについての議論の経緯:

第1~3回 理事会	毎回、定例報告の環境課題報告として、弁当容器の回収を実施し、検討を重ねていることが報告された
第4回 理事会(2012年10月9日)	報告事項として、沼田ゼミ生から、これまでの研究を踏まえた、弁当容器の新たな回収方法として、デポジット制度の導入を、モノ・カネの流れを交えて具体的に提案し、質疑応答
第5回 理事会(2012年11月6日)	報告事項として、第4回理事会での質問への沼田ゼミからの回答が報告され、質疑応答
第6回 理事会(2012年12月3日)	・第4回・第5回理事会での質問への沼田ゼミからの回答が、理事会での質問を受けて学内で新たに実施したアンケートの結果とともに報告された ・その後、審議事項として、福大生協の専務理事から、沼田ゼミからの提案を実施することの提起があり、様々な議論が交わされ、継続審議となった
第7回 理事会(2013年1月23日)	・沼田が、第6回までの理事会で出た様々な意見について論点整理を行った上で、沼田ゼミからの提案の実施について審議 ・2013年4月から弁当容器にデポジット制度を導入することが可決された

- 理事会を経るごとに、理事会で出た意見・質問を精査し、沼田ゼミの提案に改訂を重ねた。
- 第7回理事会の後、沼田ゼミ生、福島大学環境サークルの有志、福大生協学生委員会、福大生協からなる、福島大学弁当容器デポジット実行委員会を立ち上げ、準備を重ね、2013年4月から弁当容器デポジットを開始。2013年11月現在も実施中(具体的な概要および評価は、2014年度以降の廃棄物資源循環学会等で報告する予定)

- ・福島大学における弁当容器デポジットについての具体像・詳細は、このポスターに付属の参考資料や、「福島大学における弁当容器デポジットについてのページ」
(<http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/~numata/bento.html>) (右のQRコード)をご参照ください

「福島大学における弁当容器デポジットについてのページ」へのQRコード



(III) 弁当容器へのデポジット制度導入の論点

- ・下記の表は、福大生協理事会における様々な意見などをもとに、弁当容器へのデポジット制度導入の論点を示したものである。
- この表は、回収ボックスを設置しているのみの状況から、弁当容器へのデポジット制度も併せて行う場合に考えられる変化を、論点ごとに示している

論点		弁当容器にデポジット制度を導入する場合に考えられる変化
負担・手間	消費者	・デポジット分だけ高い弁当を買う(ただし、使用済み容器を返すと、デポジットは返金される) ・使用済み容器の返却などの手間がかかる(なお、容器回収専用レジが設置されれば、消費者の返却の手間の削減を図りうる) ・食後の容器について、分別数が増える(フィルム…燃えるごみ、発泡トレイ…レジに持参、ふた…廃プラ)
	販売者	・デポジットの受けとり等発生。弁当の販売が減るかもしれない
	回収者	・リファンドの支払、容器の受取等発生(なお、デポジットを徴収しているため、リファンドの財源を確保できる)(なお、容器回収専用レジを設置すると、リファンドの支払や容器の受け取り等の負担は変わりうる) ・回収ボックスからの容器回収を減らせるかもしれない ・使用済み容器の回収量が増加することで、回収した容器をリサイクル工場に運ぶ費用が増えるかもしれない ・新たに回収できた使用済み容器に相当する廃棄物の処理費用を軽減できうる
未返却預り金の取り扱い		・どのように未返却預り金を取り扱うかの検討要(例: 回収促進や環境への取組等に使用)
集客への影響		・使用済み容器を持参することに伴う集客の増加があるかもしれない ・購入時にデポジット分だけ値上がりすることによる集客の減少があるかもしれない
環境への取組を行っている印象		・消費者から見ると、販売者や回収者は環境への取組をより行うようになったと見える
社会的責任	障がい者雇用	・回収された容器を扱う仕事をする障がい者の雇用に関係する
	環境負荷	・回収率は大きく上がると予想される(弁当容器の散逸を減らせるはず)(沼田(2012)参照) ・回収・リサイクルを企図した容器を使うなら、回収が環境に最も優しいという推定結果あり ・環境負荷は個別・具体的に考える必要があると考えられる
教育・啓発		・お金のやりとりや、容器の返却など、環境のことを考えるきっかけが増え、環境教育的に前進し、啓発効果があると考えられる ・他の環境への取組や検討に波及する可能性がある
社会的要請		震災後、特に、新しい取組が求められているという側面があり、これに対応しうる
評価項目		回収率、販売量、集客数、レジ処理速度 など
移行時の対応		デポジット制度の導入への対応の仕組みづくり等必要、消費者への告知必要、既存の回収方法との関係の検討要
その他		開始日、実施場所、実施時間、対象容器(制度導入前の容器の扱いなど)、告知方法、関係者間での役割分担の検討要

- なお、負担・手間の削減方法等は工夫のしどころあり
- 各論点をどの程度重視するかは、検討している集まり(例: 理事会)の考え次第。大学生協の場合、拠点は大学にあるので、教育・啓発の観点は大きいかもしれない

参考文献:

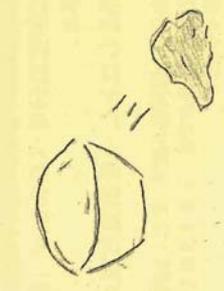
- ・沼田大輔(2012)「使用済み弁当容器の回収促進策の実証分析—全国の大学生協へのアンケート調査から—」第23回廃棄物資源循環学会研究発表会講演論文集 pp.35-36
- ・沼田大輔(2011)「使用済み弁当容器の回収システムの分類 - 大学生協へのヒアリングをもとに - 」第22回廃棄物資源循環学会研究発表会講演論文集 pp.31-32
- ・沼田大輔(2010)「弁当容器回収ボックスの設置とその影響 - 福島大学の例 - 」第21回廃棄物資源循環学会研究発表会講演論文集 pp.13-14
- ・沼田大輔(2009)「大学生協における弁当容器デポジット制度について」第20回廃棄物資源循環学会研究発表会講演論文集 pp.41-42
- ・小野真太・沼田大輔(2013)「デポジット制度導入の経済学的検討の方法について - 弁当容器を例に - 」『環境経済・政策研究』Vol.6, No.2, pp.1-11

デポジット制度

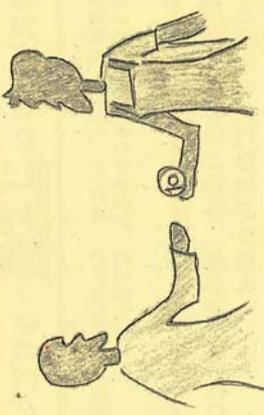
が 始 ま り ま し た ！

弁当価格 + 預かり金10円

① 弁当料金に預かり金10円を上乗せして販売します



② 内側のフィルムをはがして容器をレジへ返却すると...



③ 値上がりした10円が戻ってきます



- ・ 容器回収場所
購買・食堂の全レジ
- ・ 対象容器
「福島大学生協」と記載されている弁当、フィルムをはがせる井ノタイプの容器
- ・ 回収時間
生協の営業時間内

詳細は
<http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/~numata/bento.html#デ>
 E-mail: numata@econ.fukushima-u.ac.jp

TEL: 024-548-8423



① 弁当料金にお預かり金10円を上乗せして販売します

- > 福島大学生協のすべての店舗で、この形となります。
- > 商品のラベルにはお預かり金の料金は書かれておりませんが、購入の際にはラベル表示の値段に10円プラスして精算されます。

② 弁当容器のフィルムをはがしてレジに返すと10円が戻ってきます。

- > 福島大学生協のすべてのレジ（購買店のサービスカウンターを含む）で対応致します。
- > 破損等をしたトレーをお持ち頂くことはご遠慮願います。
- > お昼休みには、購買店の前やL2とL3間の通路に試験的に弁当器回収専用の特設レジを設置することを検討中です。（現時点では、2013年5月から6月の月曜日・火曜日・木曜日の12時20分から12時50分を予定。）

③ 食後の弁当容器のフィルムは学内等にある燃えるごみのゴミ箱へプラスチック製のふたはプラスチックのゴミ箱へ捨ててください。

④ これまで学内4箇所に設置されていた弁当器回収ボックスについては、引き続き設置・運用します。なお、弁当器回収ボックスに返却された容器への10円の返金はできません。ご了承ください。

⑤ 容器をレジにお持ち頂けなかった場合のお預かり金は、環境対策費として容器回収やキャンペーンパスをきれいにする取り組みなどにあてられます。

皆さんご協力よろしくお願い致します！

なお、この取り組みは福島大学弁当器デポジット実行委員会の取り組みです。取り組みの詳細等については、<http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/~numata/bento.html>に随時掲載していく予定です。

お問い合わせ等は福島大学生協の田中、もしくは福島大学経済経営学類の沼田までお願いします。

福島大学生協 事務理事 田中 麻治
 TEL: 024-548-5141
 E-mail: kotanaka@fc.univcoop.or.jp
<http://www.fukushima-u-coop.or.jp/>

福島大学 経済経営学類 准教授 沼田 大輔
 TEL: 024-548-8423
 E-mail: numata@econ.fukushima-u.ac.jp
<http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/~numata/>